

Okayama University of Science

岡山理科大学

産学官金連携情報

リエゾン Vol.16

LIAISON

写真：和気町 藤まつり（令和6年撮影）

INDEX

巻頭	学長あいさつ
P1	大学の概要 研究・社会連携部
P2～3	研究・社会連携部の主な業務
P4	OUS フォーラム
P5	「獣医学研究科」の紹介 —大学院の新設—
P6～8	地域貢献事例
P9～12	研究シーズ紹介
P13	共同研究等手続き

学校法人 加計学園
岡山理科大学
www.ous.ac.jp

発行日 2024年10月1日



60周年を迎えて



学長 平野 博之

1964年に開学した本学は、今年度60周年の節目を迎えます。これまで時代の要請に応え、組織を充実させ、今では8学部20学科1コースとなりました。

一方で大学に企業との共同研究が成果として求められるようになってすぐの2001年にスタートしたOUSフォーラムは、今年で24回目を迎えます。企業との連携を趣旨とするイベントとしては、当時、全国に先駆けた草分け的な存在でした。そこには当時すでに本学には、研究シーズを通して地元岡山に貢献したいという意志がありました。その後、社会情勢の

変化とともに地域貢献に求められる内容も変わってきました。

本学がいま提案したいと考える地域貢献は、研究シーズを通じたステークホルダーの課題解決やイノベーションの提供に加え、教育シーズを通じた地域への高等教育の提供です。そのためには、教育と研究の礎が大切ですが、これまで本学は、教育と研究を一体不可分とする立場を堅持し両者に注力してきました。

そして本学は、地域貢献を通して地域から選ばれるだけでなく、学生や社会、そして今年度からは新たに「世界」を加えたステークホルダーからも「選ばれる大学」を目指します。そのために、ポストコロナのニューノーマルな社会における教育シーズとして、通信制課程を開設します。時間と場所を選ばない学びのスタイルは、国内外の多くの方に支持されると信じています。この冊子で紹介する本学の特徴的な研究シーズも、世界を見据えて本学が自信をもって紹介するものです。

これからも本学は、グローバルな観点から教育と研究のシーズを磨き育てることで、持続発展可能な社会の実現に貢献し、「選ばれる大学」として評価いただけるよう、邁進してまいります。

大学の概要

大学名称：岡山理科大学
設置母体：学校法人加計学園
大学設立：1964年4月
所在地：岡山市北区理大町1-1
教員数：397名(2024年5月1日現在)
学生数：6,729名(2024年5月1日現在)



建学の理念

ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として、社会人として、社会に貢献できる人材を養成する

理学部

応用数学科
基礎理学科
物理学科
化学科
動物学科

工学部

機械システム工学科
電気電子システム工学科
情報工学科
応用化学科
建築学科

情報理工学部

情報理工学科

生命科学部

生物科学科
NEW 医療技術学科(仮称)(注1)

生物地球学部

生物地球学科
NEW 恐竜学科 2025年4月新設

教育学部

初等教育学科
中等教育学科

経営学部

経営学科

獣医学部

獣医学科
獣医保健看護学科

アクティブラーナーズコース

NEW 通信教育部

情報理工学部
・情報理工学科 2025年4月新設

大学院

理工学研究科

修士課程
・自然科学専攻
・システム科学専攻
博士課程(後期)
・自然科学専攻
・システム科学専攻

マネジメント研究科

修士課程
・マネジメント専攻

獣医学研究科

(注1) 2025年4月新設(認可申請中)

研究・社会連携部

大学は教育と研究という基幹的使命に加え、これらの成果を広く社会に還元する第三の使命として社会貢献があります。研究・社会連携部は研究を推進すると共に、開かれた大学として地方公共団体、産業界等と連携して地域社会の発展に寄与することを目指しています。



研究・社会連携部の主な業務

産学官金連携

連携協定

「地域の課題解決や活性化に貢献し、地域と共に発展する大学」を実現するため、県内外の産学官金の様々な機関と連携協定を締結し、協力体制を構築しています。国内のみならず、海外における研究拠点やネットワークの形成を目的として、モンゴルをはじめタイやフィリピンの高等教育機関とも連携協定を締結しています。



加計学園と岡山県と気町 包括連携協定調印式
(2024年6月14日)

連携協定機関 (2024年9月現在)

国内				
浅口市岡山天文博物館	今治市	今治明德短期大学	海の中道海浜公園動物の森	愛媛県今治警察署
(公社)愛媛県獣医師会	(公財)愛媛県動物園協会	(大)愛媛大学	(大)愛媛大学大学院医学系研究科/愛媛県立衛生研究所/(公大)愛媛県立医療技術大学	大牟田市動物園
岡山県高等学校工業教育協会	岡山県ゴルフ協会	岡山県サッカー協会	岡山県生涯学習センター	(大)岡山県立大学
岡山市	岡山商工会議所	おかやま信用金庫	(大)岡山大学	(公社)おかやま観光コンベンション協会
(公財)沖繩子どもの国	香川県農業共済組合	(公社)香川県獣医師会	(大)鹿児島大学共同獣医学部	(公財)吉備路文学館
吉備中央町・(特非)吉備高原サラプリトレーニング	(大)京都大学化学研究所	倉敷市	倉敷市・ふなおファイナリー(有)	群馬サファリパーク
(公社)高知県獣医師会	(公財)高知県のいち動物公園協会	高知県農業共済組合	国土交通省中国地方整備局	西海国立公園九十九島動物園
玉島信用金庫	中小企業金融公庫岡山支店(現 日本政策金融公庫)	宮崎県都農町・東日本電信電話(株)・西日本電信電話(株)	国立高専機構津山工業高等専門学校	tetta(株)・新見市
(公社)徳島県獣医師会	徳島県農業共済組合	(地独)天王寺動物園	(株)東北サファリパーク	(株)トマト銀行
ナカシマホールディングス(株)	奈義町教育委員会	名護自然動物植物公園(株)	(公社)日本技術士会中国本部岡山県支部	(特非)日本ネットワークセキュリティ協会
バイオパーク(株)	姫路セントラルパーク	広島市安佐動物公園	(公社)広島県獣医師会	福山市立動物園
富士自然動物公園	(有)屋久島野外活動総合センター	高知市	大阪公立大学工業高等専門学校	愛媛県保健福祉部・愛媛県農水産部
松山市	島根県農新水産部	(株)天満屋	和気町	始良市
(一社)瀬戸内市観光協会・(一社)吉備オープンイノベーション協会	データスタジアム(株)			
国外				
タイ王国ワイルラック大学	フィリピン共和国マリア大学	モンゴル科学アカデミー古生物学研究センター	モンゴル国ナラン学校	モンゴル国立教育大学
モンゴル生命科学大学				

地域貢献

地域の研究拠点として、活力ある地域づくりに貢献すべく、地域の産学官金連携活動に積極的に取り組んでいます。岡山県内の産学官金の主要な機関で構成された「岡山・産学官連携推進会議」に参画し、様々な協働事業、イベントに参加するとともに、参画機関を通じた技術相談等にも対応しています。

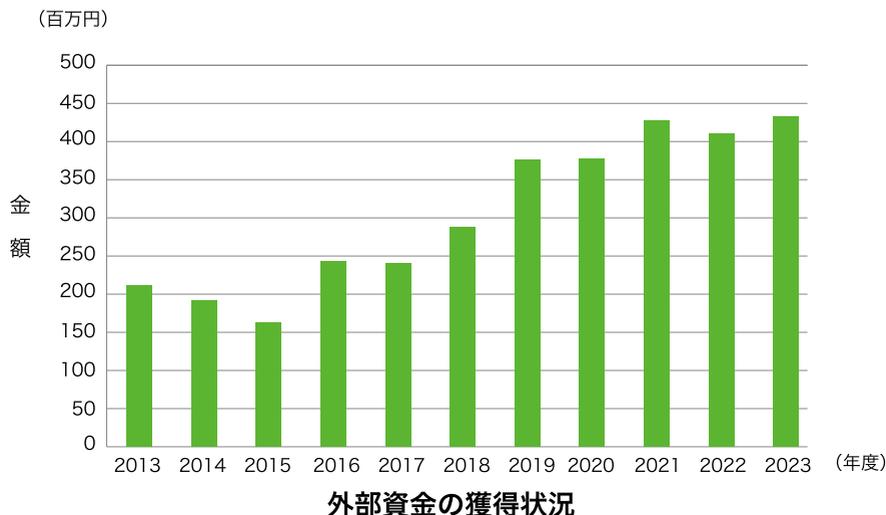
また、令和元年度に設立された「岡山県 企業と大学との共同研究センター」の活動に協力し、県内大学間のコーディネーターによる情報交換を通じて、地域企業の技術力向上の一端を担っています。



イベントでの技術相談対応

研究推進・外部資金獲得

科学研究費助成事業、各種財団の研究助成事業、国や自治体の公的資金、各種機関との受託研究／共同研究など、外部資金獲得のための説明会開催や情報収集・提供を行っています。



知的財産管理

「研究を通じた知財の創造」、「生み出された知財の権利化」、「知財活用による研究投資の回収」という知的創造サイクルの活性化に向け、教員や学生向けセミナー開催のほか、知的財産の権利化・管理・活用に向けた取り組みを行っています。



知的財産権セミナー

研究シーズ発信

本学独自のフォーラムの開催や、研究シーズ集である「OUS 研究者ナビゲーター」の発行、ホームページへの掲載、さらに JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）が主催する大学見本市や新技術説明会に加え、関連の各種展示会に出展するなど、積極的な発信に努めています。



岡山リサーチパーク研究・展示発表会

産学官金連携の機会創出の場「OUS フォーラム」

OUS フォーラムとは

岡山理科大学ではホットな研究シーズを発信し、産業界との交流を活発にするとともに企業のニーズをタイムリーに把握するため、毎年11月に「OUS フォーラムー基礎から応用・未来技術への出会いと対話ー」を開催しています。産学官連携が叫ばれ始めた2001年度から本学がいち早く始め、今年度が24回目の開催になります。

このフォーラムは、大学の研究者と直接対話していただき、シーズとニーズの出会いから未来を切り開く技術へと繋げる、産学官金連携の機会創出の場となっています。

OUS フォーラム 2024 の開催

2022年度は3年ぶりの会場開催となり、2023年度も多くの方々にご来場いただき闊達な対話の場となったこと、御礼申し上げます。2024年度は引き続き会場開催での情報発信を行います。会場では、特別記念講演、ポスターセッション、口頭プレゼンテーションの3部構成で実施します。

参加申し込み方法は

会場開催及びオンライン発信とも、どなたでも参加もしくは閲覧いただけます。研究・社会連携部のホームページに掲載している OUS フォーラムの特別サイトから申し込めいただくか、または直接お問い合わせください。

(OUSフォーラム 2024 サイト)

<https://renkei.office.ous.ac.jp/forum>



【問い合わせ先】

岡山理科大学 研究・社会連携部

E-mail: renkei@ous.ac.jp

TEL: 086-256-9731



会場でのポスター発表風景 (2023年)

※ OUS フォーラムに関する最新情報は HP 上でご確認ください

主催・共催 岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学

後援

(2023年実績)

(国研)科学技術振興機構	中国経済産業局	国土交通省中国地方整備局	岡山県	岡山県工業技術センター
岡山県教育委員会	岡山市	岡山市教育委員会	倉敷市	玉野市
(公財)岡山県産業振興財団	岡山県市長会	岡山県町村会	岡山県経済団体連絡協議会	(一社)岡山県商工会議所連合会
岡山県商工会連合会	岡山県経営者協会	(一社)岡山経済同友会	岡山県中小企業団体中央会	岡山県中小企業家同友会
(一社)システムエンジニアリング岡山	(一社)中国地域ニュービジネス協議会	(一社)岡山県発明協会	(公社)山陽技術振興会	(株)日本政策金融公庫岡山支店
おかやま信用金庫	(株)トマト銀行	岡山リサーチパーク・イノベーションセンター	岡山県医用工学研究会	山陽新聞社

「獣医学研究科」の紹介 —大学院の新設—



新規産業創生を担う、次世代獣医学研究者の養成と産学官金連携の拠点化を目指して

獣医学研究科長 江藤 真澄

2024年4月、愛媛県今治市に岡山理科大学大学院獣医学研究科が誕生しました。獣医保健看護学専攻(修士課程)と獣医学専攻(博士課程)を配置し、新たな獣医学関連研究分野や産業の創生に貢献できる、創造力あふれるライフサイエンス・公共獣医事・獣医療看護・臨床獣医領域研究者の輩出を目指します。

現代社会の繁栄と調和は、愛玩動物、産業動物、実験動物、野生動物との相互作用によって成り立っています。一方、人獣共通感染症の脅威が顕在化し、ペットと飼い主の高齢化や野生動物を介した産業動物の感染症など、新たな問題も浮き彫りになってきました。本研究科では、これらの問題を迅速かつ正確に分析し、それらに対する最適解を見いだすことで、ヒトと動物の生活の質「いきものQOL」の向上に取り組むことができる知識と実行力を持つ研究者を養成します。

獣医学研究科では、学際的かつ協調的な研究を積極的に推進する欧米型のオープンラボ形式と、複数の教員が1人の学生を指導するマルチアドバイザー制度を採用し、俯瞰的かつ多面的な視点で情報を正確に抽出し、問題点を解析する能力、課題解決のためのリーダーシップと協調性を養成します。

さらに、国立大学と同等の学費で社会人も学びやすい教育カリキュラムを整備しました。ぜひ、環瀬戸内および西日本における獣医学関連研究・教育機会の地理的な空白を埋める私たちの研究科に、いきものQOL向上を目指した新規事業創出のお手伝いをさせてください。



研究の様子（獣医学教育病院にて）

〔 地域貢献事例 1 〕



ドライブレコーダデータの見える化で 「交通事故抑止への新たな発想と視点」

学生支援機構 情報基盤センター 教授 平田 豊

私達が生活する岡山県は、地方都市ならではの自動車中心という交通環境で、全国的にも、都市部を除いてほとんど同じ環境と言えます。

被害者、加害者ともに悲劇となる交通事故は、春・秋に全国で交通安全運動が行われ、警察、自治体、ボランティア、市民が連携して、広く啓発に力を入れてきた歴史があります。

交通事故死者数(24時間以内に亡くなった統計値)は、医療の進歩と車両の安全対策の向上によって大幅に減少していますが、人身事故、物損事故を合わせた総事故件数は減少するどころか10年間ほとんど変わっていません。(表1)

区 分	総事故件数	発生件数	人 身 事 故		負傷者数	物損事故件数
			うち死亡事故件数	死者数		
令和5年	50,713	5,161	49	49	5,816	45,552
令和4年	47,917	4,348	73	74	4,855	43,569
増減数	2,796	813	-24	-25	961	1,983
増減率	5.8	18.7	-32.9	-33.8	19.8	4.6

今まで、各機関において、考え得る限り(表1) 出典：岡山県警 HP

の交通事故抑止対策がなされてきたところ、新たな発想と視点での対策が求められています。

交通事故は、人の不注意から発生する労働災害と極似しているため、仮説としてハインリッヒの法則の適用が可能と考えられています。しかし、警察は1:29:300の30件のみを分析して対策を行ってきました。300のヒヤリハットは把握できなかったのです。

そこで、地元IT企業の受託研究を受け、ドライブレコーダ(2021年の普及率52.5%)に記録されているGPS情報と速度情報をGISに表示する共同研究を行い、急ブレーキ、速度超過等の「危険箇所見える化」を可能にしました。(図1)

今後は、要素別のデータの収集方法、非定型ビッグデータを解析するAIの開発、分析結果の社会実装等、道半ばではありますが、辛く悲しい思いをする交通事故当事者を一人でも少なくする研究を続けたいと考えています。



(図1) ドライブレコーダデータの見える化

〔 地域貢献事例 2 〕



若者視点で「矢掛と児島」二つの まちづくりを考えるラボ

—果実農園他とのコラボによるイノベーションラボ—

経営学部経営学科 教授 鷲見 哲男
講師 藤原 美佳(執筆)
助教 張 善会

経営学部の3年次必修科目「イノベーション・ラボ」は、企業や自治体が抱える課題の解決に向けて、学生が1年間かけて取り組むPBL(Project Based Learning)形式の授業です。そのプロジェクトの一つとして、『若者視点で「矢掛と児島」二つのまちづくりを考えるラボ』があります。このラボは、歴史や農業資源に恵まれた矢掛町と繊維の町として知られる児島の二つの地域の課題解決に向けて、まちづくりのアイデアを創出し、地域活性化のための実現可能な施策を提案することを目的としています。

現在の活動内容としては、まず、フィールドワークを通して、矢掛や児島の魅力を探求し、地域への理解を深め、さらに、SWOT分析やクロス分析により、矢掛や児島の活性化のアイデアを創出しています。例えば、矢掛町の場合は、総人口の減少が大きな課題となっていますが、一方で観光客数は増加傾向にあります。総務省の「国勢調査」によると、2013年の18万人から、2017年には33万人、令和元年も33.4万人と、ここ数年は30万人前後の入込客数となっています。このような状況の中で、さらなる観光客数の増加を目指し、矢掛町の魅力の発信によるブランド力の向上に取り組みたいと考えています。

今後の具体的な活動として、現在連携しているフルーツピアが制作・販売しているオリジナルTシャツ(施設のカフェで提供していたパフェをモチーフにしたTシャツ)を学生目線でブランディングし、矢掛町全体の活性化に貢献したいと考えています。



矢掛町(フルーツピア他)での野外活動



真剣にブランディングを検討する学生達(フルーツピア)

〔 地域貢献事例 3 〕



四国の鯨類ストランディング調査について

獣医学部 講師 奥田 ゆう

イルカやクジラなどが生きてまま座礁したり、弱って泳ぐ力を失ってしまった個体や遺体が漂着したりすることを、ストランディング(stranding)といいます。獣医学部のある愛媛県今治市は陸地部の高縄半島と島嶼部の芸予諸島にまたがっており、沿岸部では以前から小型鯨類のストランディングが報告されていました。当研究室にも徐々にその連絡が入るようになったため、小規模ではありますが鯨類のストランディング調査を開始しました。

鯨類のストランディング情報は、愛媛県生物多様性センターや市役所、漁協、そして地域住民の方々から直接など、様々なところから入ります。連絡が入ったらすぐに大きなビニル袋やブルーシートなど、遺体を回収するための道具を車に積んで現地に出発します。現地では撮影や計測など記録をとったら、梱包して大学に持って帰ります。持って帰ってきた遺体は冷凍庫で一旦保管し、国立科学博物館や長崎大学、愛媛大学など様々な研究機関と協力して、研究用のサンプリングを行っています。骨格標本の作製も行います。

昨年度はスナメリ6体、スジイルカ1体、コマッコウ科鯨類2体の対応を行いました。ストランディング対応は行政機関だけでなく、地元の博物館や地域の方々の協力があってはじめて可能になります。ゴミになってしまう遺体を、教育や研究に役立てるだけでなく、地域の標本として、100年、200年後まで残していけるようにしていきたいと考えています。



2023年8月に高知県土佐清水市大岐海岸にストランディングしたコマッコウ科鯨類



本学の学生と地域の方々、高知県の博物館関係者で個体を引き揚げる様子

〔 研究シーズ紹介 1 〕



ヒトと動物がともに安心して老いることができる世界の実現に向けて

獣医学部 獣医保健看護学科 教授 木村 展之

私はこれまで、カニクイザルというヒトに近縁な実験用サル類を用いてアルツハイマー病の発症メカニズム解明を目的とする基礎研究を続けてまいりました。その結果、老化に伴う細胞内輸送機能の低下が病変蛋白質の蓄積や神経伝達機能の障害を引き起こすことを明らかにしました。そこで現在は、老化に伴う細胞内輸送機能の低下を予防・改善する方法を開発するための研究に取り組んでいます。また、獣医療技術の進歩や栄養学の発展に伴うフードの改善により、近年はイヌやネコなど伴侶動物においても高齢化が進んでいます。大切な家族である動物たちが長生きすることは喜ばしいことですが、同時に老年性疾患の発症リスクも増加します。老年性疾患は罹患した動物自身の苦痛もさることながら、飼い主家族にとっても介護という大きな肉体的・精神的負担が生じます。事実、認知症を発症したイヌの介護は既に大きな問題となっており、今後はさらに老年性疾患に罹患する動物数が増えると考えられています。そこで私たちの研究室では現在、イヌやネコの老化を評価するためのバイオマーカー確立に向けた研究活動にも取り組んでいます。まだまだ発展途上のプロジェクトではありますが、ヒトと動物がともに安心して老いることができる世界の実現に向けて、研究活動に鋭意取り組んで参ります。



実験室で研究活動に勤しむ学生達

〔 研究シーズ紹介 2 〕



「いきものQOL」介護リハビリデバイス技術を 小動物に応用

情報理工学部 情報理工学科 准教授 趙 菲菲

世の中では、イヌやネコといった小動物ペットを飼う家庭が増えており、イヌやネコを家族のように愛する家庭も少なくはありません。けがや椎間板ヘルニアなどで重度の脊髄損傷を負った小動物の介護は大変です。椎間板ヘルニアを例に挙げますと、最も重いグレード5は後肢が麻痺した状態で、日常生活に支障をきたすうえ、リハビリ等治療を目的に動物病院に通院する事になり、精神的にも経済的にも負担がのしかかります。そこで今治キャンパス獣医学科の糸井崇将先生と“獣工連携”を行い、散歩などで移動するのに欠かせない小動物車いすに乗って前肢と同期させ、後肢に刺激を与えることで機能回復を図るリハビリデバイスの開発をスタートしました。

蒸気機関車(SL)の駆動輪の動きを参考に、車輪と後肢のステップ部分をロッドでつなぎ、クランク機構で動かす方法を試みました。そのままつないだのでは後肢部分の速度が前肢に追いつかないため、元々減速機としてよく使われる「遊星歯車」機構を取り入れました。これは太陽歯車を中心として複数の遊星歯車を組み合わせた機構です。太陽歯車と遊星歯車の歯数を調整すれば、速度伝達比が変わります。半年がかりで仕上げた試作機「イヌ歩行機能改善リハビリデバイス」を今治キャンパスで動作確認をしました。制御と調整はまだこれからです。前肢の歩容にうまく合わせて後肢も動かす仕組みを改良しています。小動物の体に負担がかからない構造をめざし、散歩しながらリハビリ治療も可能な車いす型リハビリデバイスを開発しています。



試作機「イヌ歩行機能改善リハビリデバイス」動作確認の様子（今治キャンパス）

〔研究シーズ紹介 3〕



『宇治拾遺物語』と古典の授業

教育学部 中等教育学科 講師 井浪 真吾

鎌倉時代に成立したと言われている『宇治拾遺物語』は、表層的な読みやすさとは裏腹に、事象や語のモチーフ性、話型、さらには流通する人物像や逸話を巧みに用い、批評性に富む説話集であると考えられています。『宇治拾遺物語』は読者の〈知〉を試しながら、それに応じて多彩な風貌を覗かせる説話集でもあり、読者の〈知〉を試すテキストであるとも言われています。

一方、『宇治拾遺物語』は高等学校国語教科書にも採録されることが多いテキストです。ただ、古典の授業での扱われ方を見ると、表層的な読みやすさという点から、古典入門に相応しい教材と考えられているようです。『宇治拾遺物語』の批評性は授業ではほとんど扱われていないようです。

『宇治拾遺物語』は成立した時期と同時期の読者の〈知〉を試す説話集です。ということは、その批評性を読むためには、教材研究をする教員もこれを授業で読む生徒も、当時の読者が有していたであろう〈知〉を有する必要があります。これを考えると、『宇治拾遺物語』の批評性を読む古典の授業をつくることは容易ではないことが実感されると思います。

しかし、『宇治拾遺物語』の批評性は現代の読者が読んでほっとさせられるものが少なくないです。また、こうした体験の積み重ねによってはじめて、生徒は古典を携えて現代の問題を考えようとするのでしょう。生徒が、『宇治拾遺物語』のみならず古典全般に対する頼もしさを実感できるような古典の授業のあり方を、中高教員であった経験を踏まえて模索しているところです。



『宇治拾遺物語』（名古屋大学附属図書館所蔵）
出典：国書データベース
<https://doi.org/10.20730/100272687>

〔 研究シーズ紹介 4 〕

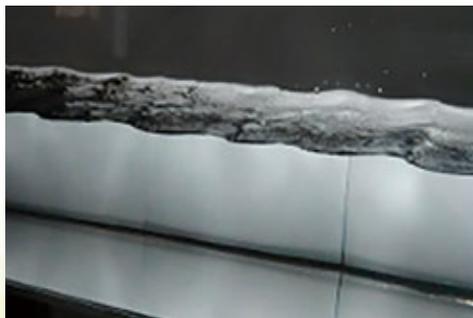


「機械」と「台風」

工学部 機械システム工学科 准教授 岩野 耕治

私は現在、工学部の機械システム工学科に所属し、機械の性能向上を目指して、空気や水の流れによる機械内外での熱や物質の移動を研究しています。同時に、台風の研究も行っています。一見、機械と台風は関係がないように思えますが、流体力学的には多くの共通点があります。例えば、私が研究している粗面(凸凹面)を通した熱の輸送です。熱交換器では、プレート表面に凸凹をつけることで流れを変化させ、熱交換を促進します。同様に、強風で波立つ海面も凸凹が生じることで、海から大気への熱輸送が活発になります。どちらの場合も、粗面上を流体がどう流れるかが熱輸送にとって重要です。

台風は海から大気へ移動する熱をエネルギー源としています。そのため、台風の強度を正確に予測するには、海水面(粗面)を通しての熱輸送量の正確な評価(モデル化)が非常に重要です。しかし、現在のコンピュータでの予測モデルは、低風速に対して作られたモデルをそのまま高風速に対して使用する粗雑な方法が用いられています。これは、台風直下の海上での観測が非常に困難であり信頼できる高風速時のデータが存在しないためです。そこで、私の研究室では風洞水槽という実験装置を用いて、室内で強風時の海表面を模擬し、界面形状、流れ構造、熱輸送の関係を明らかにすることに取り組んでいます。台風の研究で明らかになったことが、将来的には機械の性能向上につながる可能性を秘めています。



風洞水槽内に発生させた水面波



共同研究等手続き



共同研究

共通の課題について、役割分担を決めて共同で研究を推進するものです。



受託研究

委託を受け、本学教員が研究を行いその成果を委託者に報告します。



研究助成

研究の奨励・成果などに対する助成を受け付ける制度です。

お問い合わせ

岡山理科大学 研究・社会連携部

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

Tel. 086-256-9731 Fax. 086-256-9732

URL <https://renkei.office.ous.ac.jp>

E-mail renkei@ous.ac.jp



発行: 研究・社会連携部

〒700-0005 岡山市北区理大町 1-1

Tel. 086-256-9731

Fax. 086-256-9732

URL <https://renkei.office.ous.ac.jp>

E-mail renkei@ous.ac.jp

©2024 Okayama University of Science



LOVE & SCIENCE.

すべてはキミの未来のために。



SCIENCE is here, the future is here.

岡山理科大学

OKAYAMA UNIVERSITY OF SCIENCE